

令和6年度第4回秋田市社会福祉審議会児童専門分科会
(秋田市子ども・子育て会議) 会議録

1 日時 令和6年11月27日(水) 午後3時00分～午後4時00分

2 場所 秋田市役所5階 正庁

3 出席者

(1) 委員(7人) ※委任状 3名

奥山順子会長、稲見育大委員、上村清正委員、鶴田悦子委員、南野久男委員、
山崎純委員、渡辺丈夫委員

(2) 事務局

吉田子ども総務課長、松橋子ども育成課長、石川子ども福祉課長、
清水子ども健康課長、加藤子育て相談支援課長、ほか関係職員

4 傍聴者 なし

5 会議の内容

○ 開 会

○ 議 事

(1) 前回資料の修正について

(2) 「(仮称)第4次秋田市子ども・子育て未来プラン」(案)の検討について

(3) その他

○ そ の 他

○ 閉 会

6 議事要旨

奥山会長	議事(1)前回資料の修正について、事務局より説明を求める。
	<事務局説明 (資料1)>
奥山会長	ただ今の説明に対し、質問や意見はあるか。
	<質問・意見なし>
奥山会長	次に、議事(2)「(仮称)第4次秋田市子ども・子育て未来プラン」(案)の検討について、事務局より説明を求める。

	<事務局説明 (資料2)>
奥山会長	ただ今の説明に対し、質問や意見はあるか。
上村委員	27ページの奨学金返還助成事業について、令和8年度で終了となっている意味は。また、その分の予算はどう活用されるか。
事務局(子ども育成課長)	当該事業は令和6年度で終了予定だったが、2年延ばすこととして、予算要求しているところである。令和9年度以降については、必要性なども踏まえながら検討する。
上村委員	66ページの障がい児保育事業の概要について、私立保育所等へは補助金を交付、公立保育所においては保育士の配置となっているが、この違いは何か。
事務局(子ども育成課長)	第3次プランでは、本事業を予算事業に合わせ公立保育所と私立保育所等に分けて記載していた。本プランから一つにまとめて記載したものであり、内容自体は変わっていない。
上村委員	障がい児へのサービスについては市の認定を受けなければ利用できないと認識しており、その認定も、施設に対する補助金も、整合性を図りながら、子どもたちにとって差異のないように対応していただきたい。
事務局(子ども育成課長)	障がい児保育事業として補助金を交付する際の対象児童等については、来年度以降整理のうえ、改めて相談したい。
渡辺委員	障がい児保育事業については、幼稚園、認定こども園、保育所で内容が異なってくるほか、補助金の申請先や方法も複雑であり、単純にしてほしい。
事務局(子ども育成課長)	県と市で制度が異なり、それぞれの要件等があるため統一することは難しいが、市として必要書類を整理する等、検討したい。
上村委員	37ページの乳幼児健康診査について、小学校入学時のサポートなどのため5歳児健診が必要だと国も認めているが、プラン(案)に入っていない。市の認識や今後の対応はどうか。

事務局（子ども健康課長）	<p>任意の健診ではあるが、その重要性は認識している。本プランへの反映については、予算が確定してからとなるため、現時点では記載していないものである。</p>
奥山会長	<p>低年齢児から一斉に指導して同じ到達目標に向かわせる指導が多く、それにより保育の場で混乱が起きているように見受けられる。5歳児健診等で一人ひとりがより適切な対応が受けられるよう整えることと、保育の質の向上、両輪で対応していく必要があると考える。</p> <p>27ページの取組事業では、大人側だけの事情が内容に盛り込まれ、保育の質の向上という点が反映されていないのではないかと。</p>
事務局（子ども育成課長）	<p>目標指標において、訪問指導実施施設数を掲げている。保育主事などが施設を訪問し研修や保育参観をして協議するなど、保育の質を高めるための取組をしている。現在は施設からの要請に応じて行う形だが、施設に外部の目が入ることは質を高めるために重要だと考え、未実施の施設にも行けるような仕組みを検討している。</p>
奥山会長	<p>開かれた、風通しのよい施設であることは大事だと思うので、予算や人材が限られた中ではあると思うが、検討してほしい。</p>
稲見委員	<p>5歳児健診は重要だと思っており、予算つかなければ載せられないという事情も分かったが、どこかに文言を含めることで、その重要性が広がっていくのではないかと。</p> <p>また、不登校の子どもたちが非常に増えている中で、そうした子どもたちをサポートする団体などに対する支援についても、5年先のことを見据えて力を入れていただきたい。</p>
事務局（子ども総務課長）	<p>不登校児の増加を受けて、そうした支援が必要であるということを経済委員会へ伝えるほか、子ども未来部としてできることを検討する。</p>
山崎委員	<p>保護者がゆとりを持って子どもと向き合い、安心して子育てを行えるよう、一時預かりも重要な支援の一つだと思うが、各施設の事情もあり、必ずしも希望に添って預けられる状況ではない。</p> <p>30ページのファミリー・サポート・センターの利用会員一人に対する協力会員数の目標値について、令和11年度は0.4人になっているが、ここを1人にすることはできないかと。</p> <p>協力会員の高齢化等、様々な背景があるためだと思うが、預けた</p>

	<p>いときに預けられる環境づくりは本プランにおいても重要である。</p> <p>目標値を上げるだけでなく、それを達成できるような仕組みも併せて考える必要があると思うが、検討してほしい。</p>
事務局（子育て相談支援課長）	<p>0.4人は、第3次プランの目標値である。協力会員の高齢化などにより会員数は横ばいで打開策なども検討しているが、まずは第3次プランの目標値を達成したいと考えてこの数値を設定した。</p>
渡辺委員	<p>カリフォルニア大学のジェイ・ベルスキー教授の論文によると、不登校児の増加については、乳幼児期の長時間保育も要因とされていた。愛着などの問題もあることから、市としても、必要な時間だけ預けるような啓蒙をしてほしい。</p>
奥山会長	<p>様々な事情があるため、一概に時間だけでは言えないところがあると思うが、保育をする側が疲弊してしまえば、子どもたちにしわ寄せが向かってしまう場合があることも考慮すべきである。長時間の保育については、その背景に何があるのかを丁寧に見ていく必要がある。</p>
事務局（子ども育成課長）	<p>長時間保育の弊害などに関しては、情報収集したうえで、必要に応じてどのような対応ができるか検討したい。</p>
稲見委員	<p>秋田市障がい者総合支援協議会児童部会が主催する交流会等への参加事業者の割合を目標に掲げていくことは良いと思う。事業所同士で交流できる機会は少ないため、行政として集まる機会を作ることによって参加しやすくなり、情報共有できるようになると思う。</p> <p>また、数値目標を立てているが、質はどこで評価されるのか難しいため、その点もよく検討してほしい。</p>
事務局（子ども総務課長）	<p>情報共有の場が非常に重要であるということは認識していることから、今回のような機会を活用していきたい。</p> <p>また、昨今では数値目標を立てることが行政の流れとなっているが、数値で測れないものもあることから、その目標の立て方については検討していきたい。</p>
奥山会長	<p>プラン全体について、こどもが主語の文章がほとんどないと受け取れる。こどもの意見を取り入れるということが基本理念にあるうえで、その発想を変えるだけでも、意識や読み手に伝わるものが変わるのではないか。</p>

	<p>まず54ページ、結婚や出会いの支援について、「少子化対策の一環として」という記載は、当事者としてはあまり気持ちが良くないのではないか。</p> <p>また、60ページの「多世帯家族の同居により家族の絆を強め」という表現は、大部分が核家族である現在においては、少し違ってくるのではないか。</p> <p>それから56ページ、「父親の育児参加」という言葉について、「育児参加」という時点で主体性がない言葉であり、「子育ての当事者としての積極的な関わり」とか、もっと違う表現を工夫することはできないか。</p> <p>どのような言葉で表現するか、その言葉を多様な方がどう受け取るか、言葉を丁寧に吟味して、どの立場からプランを見せるのかと、言うことを意識した検討も必要ではないか。</p> <p>ほかに質問や意見はあるか。</p>
	<質問・意見なし>
奥山会長	<p>それでは、議案(2)は終了とする。</p> <p>議案(3)その他ということで、事務局から何かあるか。</p>
事務局（子ども総務課職員）	<次回の分科会開催日、意見提出用紙について説明>
奥山会長	ほかに質問や意見はあるか。
	<質問・意見なし>
奥山会長	これをもって議事を終了する。